

Journal
of **E**ducation
Inclusive

Printed 2016.0830

ISSN 2189-9185

Published by Asian Society of Human Services



August 2016
VOL. **1**

Review ARTICLE

インクルーシブ教育の観点に基づいた障害理解教育評価 INDEX 開発のための基礎研究

Basic Study about Development of the Education for Disability Understanding Index; Based on the Inclusive Education

金 へナ¹⁾ (Haena KIM), 権 偕珍^{2)*} (Haejin KWON)

- 1) 琉球大学大学院教育学研究科
(Graduate School of Education, University of the Ryukyus)
- 2) 立命館大学大学院経済学研究科
(Graduate School of Economics, Ritsumeikan University)

<Key-words>

障害理解教育, インクルーシブ教育, INDEX 開発

(the education for understanding disability, Inclusive Education, Development of index)

*責任著者: kkhjj51@naver.com (権 偕珍)

Journal of Inclusive Education, 2016, 1:155-163. © 2016 Asian Society of Human Services

ABSTRACT

文部科学省(2012)は、共生社会の形成に向けてインクルーシブ教育システムの理念が重要であるとし、また、初等・中等教育については、インクルーシブな社会を構築するための障害理解教育が重要であるとしている。しかし、学校教育の現場において、①障害理解教育に関する定義が明確でないこと、②障害理解教育の現状を把握・評価するためのツールが無いといった問題が指摘されている。

よって本研究では、インクルーシブ教育の観点に基づいた障害理解教育評価 INDEX 開発のための基礎研究として、障害理解教育の定義を明確にするための理論的検討を行い、INDEX 開発のための構成概念を検討した。

その結果、韓(2016)の「障害の有無にかかわらず、教育の場において、インクルーシブ教育の観点から、自己と違う他者を認識し、その違いを認め、理解につなげる教育」という障害理解教育の再定義に関する理論的背景を整理し、INDEX の構成概念の基礎になるキーワードを抽出することができた。

Received
2016 / 8 / 3

Revised
2016 / 8 / 18

Accepted
2016 / 8 / 22

Published
2016 / 8 / 30

I. はじめに

1. インクルーシブ教育における障害理解教育の重要性

現在、世界的にインクルーシブ教育が教育政策の中心的な課題として位置づけられている。韓・小原・矢野ら(2013)は、これまでの国際的な教育の変遷を整理し、インクルーシブ教育を「障害の有無によらず、共に学ぶ場を設定し、そこで行われる平等かつ包括的教育」と定義した。日本においても、同様に、インクルーシブ教育が重要視されている。文部科学省(2012)は、「共生社会の形成に向けたインクルーシブ教育システム構築のための特別支援教育の推進(報告)」において、共生社会の形成に向けて障害者の権利に関する条約に基づくインクルーシブ教育システムの理念が重要であり、その構築のため特別支援教育を着実に進めていく必要があることを示した。また、同報告において、初等・中等教育について、インクルーシブな社会を構築するための、障害理解教育の重要性が指摘されている。

また、韓・矢野・米水(2015)が開発したインクルーシブ教育評価尺度(以下、IEAT)の中でも、「教育課程の改善」領域の中に「障害理解の促進を図っているのか」という項目が設定されている。このことから、インクルーシブ教育を推進する上でも教育課程の改善の観点から、障害について正しく理解することで、共に生きる社会の構成員としての資質を養っていく必要があることを示している。つまり、日本が目指す「共生社会」の実現のためには、学校教育段階における障害理解教育の充実が必要不可欠であると考えられる。

2. 日本における障害理解教育

現在、障害理解教育という用語は、教育や福祉などの分野でよく使われている。また、多くの研究において障害理解、障害者理解、障害理解教育という用語は使用されているにも関わらず、それが具体的に何を示すのか、どのように概念を示すのかについては、あまり明確にされていない(松田, 2008)。しかし、障害理解教育の課題を明らかにした松田(2008)による再定義も ICF の観点に基づいた定義の試みにとどまり、一般化されていない。

また、学校教育における実践においても、障害理解教育に関して、特別支援学校や福祉施設を訪問・見学を行う「施設訪問」や、点字盤の体験、車いすの構造理解する活動等を中心とした「障害に関連する知識についての学習」、障害のある人の不便さや心情を理解するための「疑似障害体験」など、様々な取り組みが行われている(高橋, 2016)。しかし、学校教育における障害理解教育の現状を把握・評価するためのツールは開発されていない。

つまり、学校教育の現場において、障害理解教育を促進していく必要があるが、障害理解教育にかかる概念の曖昧さや、現状を把握・評価するためのツールが無いことから、障害理解教育に関する様々な解釈がされ、教育現場において間違った認識が広がっていると考えられる(品川, 2006; 山崎, 2006; 中村, 2011)。

したがって、本研究では学校教育における障害理解教育の現状を把握・評価するためのツールとしての INDEX を開発するための基礎研究として、これまで曖昧なままであった障害理解教育という用語やそれに類似する用語の定義、目標が記載されている文献を整理・分析することを目的とする。

II. 方法

1. 資料選定基準

- 「障害理解教育」をキーワードとして検索した文献のうち、以下の2点を満たすもの
- ・「障害理解」「障害者理解」「障害理解教育」の定義が書かれているもの
 - ・そのほか、障害理解教育の目的及び目標が書かれているもの

2. 抽出方法

- ・期間：1994年～2016年の23年間
- ・文献抽出の際に利用するデータベース：CiNii

上記、抽出方法に基づいて1994年から2016年の23年間分の「障害理解教育」に関する文献を収集した。また、資料選定基準に基づいて文献を精査し、「研究者」、「年」、「使用されている用語」、「定義および目的・目標」の観点から整理・分析する。

III. 結果

1. 障害理解・障害者理解・障害理解教育の定義および目標に関する文献検索結果

「障害理解」「障害者理解」「障害理解教育」をキーワードとして文献検索を行った結果、64件が抽出された。抽出された文献の内容を精査し、40件の文献における障害理解教育の定義および目標を整理した。

表1は、資料選定基準を満たした論文のうち、「障害理解」「障害者理解」「障害理解教育」の定義が書かれている部分を抽出し、整理したものである。

表 1-1 障害理解・障害者理解・障害理解教育の定義および目的・目標

研究者	年	使用されている用語	定義および目的・目標
徳田	1994	障害理解教育	障害のある人に関わるすべての事象を内容としている人権思想、特にノーマライゼーションの思想を基軸にすえた教育であり、障害に関する科学的認識の形成を目指したもの
	1995	障害理解の発達段階	「気づき」「知識化」「情緒的理解」「態度形成」「生活場面での受容、援助行動の発現」
障害理解教育		対象が最終目標である「生活場面での受容、援助行動の発現」に少しでも近づくように理解の段階を促進する教育	
大久保	1995	障害者理解	障害そのものについての理解と障害者問題への理解
山内	1996	偏見解消(障害理解)	SD尺度、心理的距離尺度などで測定された態度のいずれか、あるいはすべてがポジティブになること
篠崎・徳田	1996	障害理解教育	対象を理解させることよりも、その対象に関するファミリーアリティ(親しみ)を持たせ、新奇性を低めること

表 1-2 障害理解・障害者理解・障害理解教育の定義および目的・目標

研究者	年	使用されている用語	定義および目的・目標
三上・高橋	1996	障害理解教育	障害児と障害のない子どもとの豊かな交流体験にもとづき、双方において「発達・障害・障害者問題」に関する科学的な認識・理解を形成し、自己理解・相互理解を通して人間理解や人権尊重の精神を育てていく教育活動
山本・徳田・望月	1997	障害理解教育	いじめ等の障害児と他の子どもたちとのネガティブな関わりを、共に遊び、共に学ぶというポジティブな関わりへと変える指導
原田	1998	障害者理解	社会の中での障害者の置かれた立場(状況)の理解と、個人のもつ障害についての理解
松本・徳田	1999	障害理解教育の障害理解	・障害のある人に関わる全ての事象についてのポジティブな方向への態度変容 ・すべての対象について態度がポジティブに変容すること
後田	1999	疑似体験	障害者は障害故に社会の様々な場面における制度的、物理的な障壁を味わい、また言われない偏見や差別を受けるといった人の心のバリアを体験しながら生活すること
海老沢・堀尾・徳田ら	2000	障害理解教育	障害に関する適正な認識と理解を促し、結果的に障害者を取り巻くすべての事象における、ポジティブな態度変容をねらうもの
桐原・向後	2000	障害理解教育	障害に対する適切な認識と態度の形成のために、障害者に対する情緒的理解の促進並びに障害に関する知識的学習の促進を目的として、計画化されたさまざまな方法論を適用するもの
真城	2003	障害理解教育	・社会と障害との関わりを考えることを通して、自らの社会への関わり方への指針を得ることで、その過程を、一人の個人としての他者との関わり方、人間の尊厳、社会的な存在としての個人などについて、学習する機会を提供するもの ・単に障害を『知る』という意味での『理解』だけにとどまるものではなく、障害について考える、福祉について考える、そして自らが生活する社会について考えを深めていくこと
山本	2003	障害理解教育目標	障害があってもなくても同じ人であるということを理解すること
阪野	2005	福祉教育(障害理解教育)の目的	①福祉的な心情や態度を培う ②社会福祉についての知的理解・知的関心を深める ③社会福祉への自発的・市民的参加を促すこと
徳田・水野	2005	障害理解教育	障害に関する具体的な知識を与え、その知識のもとに自分が何をすれば良いかを考えさせる教育

表 1-3 障害理解・障害者理解・障害理解教育の定義および目的・目標

研究者	年	使用されている用語	定義および目的・目標
徳田	2005	障害理解	<ul style="list-style-type: none"> ・障害のある人に関わるすべての事象を内容としている人権思想、特にノーマリゼーションの思想を基軸に据えた考え方であり、障害に関する科学的認識の集大成 ・好意的に評価するのではなく、科学的認識を持つこと ・障害者はかわいそうな存在というステレオタイプの思い込みは科学的認識ではない
		障害理解の構成要素	<ul style="list-style-type: none"> ①障害に関する正確な「知識」 ②知識を基にした適切な「認識」 ③認識から形成される「態度」 ④態度の発現としての「行動」
		障害理解教育	<ul style="list-style-type: none"> ・障害理解に関する教育活動 ・障害を科学的に理解するために実施する教育活動 ・自分達の生活する社会的集団に障害者が参加することを当然のように受け入れ、また障害者に対する援助行動が自発的に現れる段階を目指し、促進して行く教育
		障害理解教育の発達段階	「気づき」「知識化」「情緒的理解」「態度形成段階」「受容的行動の段階と設定」
柳澤	2006	障害理解教育	障害および障害のある人々に対する理解の促進や啓発を目的とした障害のある人々との交流や障害に関する知識の伝達といった教育的活動
富永	2006	障害理解教育	単に知識の教育にとどまらず、共に学校生活を送る仲間として育ちあうという独自の課題
堤・今枝・山本ら	2008	障害理解教育の共通点	<ul style="list-style-type: none"> ①障害の有無にかかわらず、すべて人が対象 ②障害の科学的認識を通して人間への理解を促す
前田・高野・千賀	2008	障害理解教育	障害に関する科学的な理解・認識の形成を通して、自己理解・相互理解を深め、人間尊重・人権尊重の精神を育っていく教育活動
松田	2008	障害理解	「障害に関する科学的認識の形成」「障害者に対する情緒的理解」「ポジティブな態度変容」「生活場面での受容」「援助行動の発現」がなされること
		障害理解 (ICFの視点)	「(生活機能としての)活動と、そこに環境との関係で生じる活動制限の理解」であり、「(生活機能としての)参加と、そこに環境との関係で生じる参加制約の理解」であり、活動制限や参加制約を解消もしくは緩和するための「サポート方法の理解」であり、「拒否的・排除的態度の変容」がなされること
	2010	障害理解 (社会モデルの視点)	「その変革への意識変容と行動を含めた障害者をめぐる状況(環境)の理解」であり、「平等な社会体制の構築を志向したサポート方法の理解」であり、「存在する諸問題に対して共に取り組む共闘的理解・支持的態度の形成」がなされること

表 1-4 障害理解・障害者理解・障害理解教育の定義および目的・目標

研究者	年	使用されている用語	定義および目的・目標
西館・藪波	2010	障害理解教育	・児童生徒の障害理解の発達段階(徳田, 2005)を考慮する必要(性)
西館・澤柿	2011		
中村	2011	障害理解	・「自己理解」「他者理解」「知見的理解」三つが重なり合うところ ・「自己が知見による理解を深めながら他者を理解し、かかわり、同時に自己理解や知見による理解を深めること
		障害理解教育	障害理解を進める教育
田口・林・橋本ら	2012	障害理解教育	具体的な知識を与え、その知識をもとに自分が何をすればいいかを考えさせる教育
小林・梁・今枝ら	2013	障害理解教育	単発的ではなく、児童の実態に応じて系統的になされる必要
小田・金森	2016	障害理解教育	共生社会を目指し、すべての児童を対象に、「知識」「認識」「態度」「行動」の段階と「自己理解」「他者理解」を進めるアプローチが大切であり、児童が学んだことを実践し、行動に移すことを目標に指導されるべき

*表は、松田次生(2008)を参考にして筆者が作成。

2. 障害理解教育の定義および目的・目標に関する文献の類似する概念

40件の文献における障害理解教育の定義および目標を整理した結果、類似する概念として、「知識」「認識」「理解」「態度」「行動」「学習」「考える」「その他」の8つのキーワードを抽出した。これらのキーワードは、整理した定義や目標に含まれる単語や文章の出現頻度を基準にし、類似する概念ごとにまとめたものである。

「知識」は、知識化、知識の教育、具体的な知識、障害に関する正確な知識、障害に関する知識の学習、障害に関する知識の伝達、障害そのものについての知識(定義、種類、程度、原因等)の理解などから抽出した。

「認識」は、気づき、科学的認識、科学的認識の集大成、障害に対する適切な認識、障害に関する適正な認識、知識を基にした適切な認識、障害に関する科学的認識の形成などから抽出した。

「理解」は、科学的理解、『知る』という意味での『理解』、障害者問題への理解、障害に関する適正な理解、障害そのものについての理解、個人のもつ障害についての理解、同じ人であるということを理解、障害・障害のある人に対する理解などがある。これら以外にも、障害者の置かれた立場(状況)の理解、障害者をめぐる状況の理解(障害者問題やバリア)、社会福祉についての知的理解・知的関心、物理的・制度的・心理的バリアへの理解、サポート方法の理解、コミュニケーション方法の理解、知見による理解(知見的理解)などもある。さらに、自己理解・他者理解・相互理解、人間理解・人間への理解・人としての理解、心情的理解・心理的理解・情緒的理解など、より幅広い理解も含まれており、これらすべてを内包し、理解というキーワードを抽出した。

「態度」は、態度形成、福祉的な心情や態度、認識から形成される態度、障害に対する適切な態度、ポジティブな態度変容、ポジティブな態度(定された態度)、ポジティブな方向への態度変容、ポジティブな関わりへの変容、ポジティブ・受容的な態度の形成、受容的な態度・ポジティブな態度(への変容)などから抽出した。

「行動」は、態度の発現としての行動、受容的行動、生活場面での受容、援助行動の発現などから抽出した。

「学習」は、社会への関わり方、人間の尊厳、一人の個人としての他者との関わり方、社会的な存在としての個人などから抽出した。

「考える」は、障害について考える、福祉について考える、社会と障害との関わりを考える、自らが生活する社会について考える、自分が何をすれば良いかを考えさせるということから抽出した。

「その他」は、上で述べた7つのキーワードのうち、どれにも当てはまらないが、頻出度の高かった言葉をまとめた。かかわり、人権尊重、すべて人が対象、障害のある人々との交流、対象に関する新奇性を低める、対象に関するファミリーアリティ(親しみ)を持たせる、社会福祉への自発的・市民的参加、ノーマリゼーションの思想・人権思想を基軸、などがこれにあたる。

IV. おわりに

本研究では学校教育における障害理解教育の現状を把握・評価するためのツールとしてのINDEXを開発するための基礎研究として、これまで曖昧なままであった障害理解教育という用語やそれに類似する用語の定義、目標が記載されている文献を整理・分析することを目的とし、その結果、「知識」「認識」「理解」「態度」「行動」「学習」「考える」「その他」の8つのキーワードを抽出した。

このことから、現在の日本の教育における障害理解教育は、障害に関連する「知識」的学習を行い、知識を基に「認識」「理解」を深め、障害に対してポジティブな「態度」を形成し、「行動」に移すために「考え」「学習」する教育であるといえるだろう。しかし、障害に関連する「知識」のみを中心に障害理解教育を進めていくことでは、知識による客観的理解や、自己に無関係な傍観者的理解、自然科学的な法則的理解しか得られない(中村, 2011)。その結果、障害児・者がかわいそうな存在として認識されてしまい、障害児・者は常に援助しなければならない人という思い込みから(品川, 2006; 山崎, 2006; 中村, 2011)、社会の中で共に生活し、共に働く仲間として認識されない一員となっていたと考えられる。

障害理解教育において重要視すべきは、人間理解を基礎とする障害理解教育であり(芝田, 2013)、人間理解を基礎とする障害理解教育は、他者理解と同時に自己理解も深めていく必要がある。つまり、障害理解を促進し、共生社会を実現するためには、障害を人間の多様性の1つとして捉える必要があるだろう。芝田(2013)は、障害理解は人間理解そのものであることから、時間をかけた取り組みが必要であるとしている。また、韓(2016)も障害理解教育を「障害の有無にかかわらず、教育の場において、インクルーシブ教育の観点から、自己と違う他者を認識し、その違いを認め、理解につなげる教育」としていることから、早い段階からの継続的な障害理解教育の重要であるといえる。

今後、これらの結果を踏まえ、学校教育における障害理解教育の現状を把握・評価するた

めのツールとしての INDEX を開発していく必要がある。また、開発される INDEX が障害理解教育の一定の基準となることで、現在の障害理解教育に関する問題点を解決し、共生社会の形成に向けた障害理解教育を実施していくことに繋がるであろう。

文献

- 1) 韓昌完・小原愛子・矢野夏樹・青木真理恵(2013) 日本の特別支援教育におけるインクルーシブ教育の現状と今後の課題に関する文献的考察—現状分析と国際比較分析を通して—。琉球大学教育学部紀要, 83, 113-120.
- 2) 文部科学省(2012) 共生社会の形成に向けたインクルーシブ教育システム構築のための特別支援教育の推進(報告)
http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo3/siryo/attach/1325884.htm
(2016.08.25 最終閲覧)
- 3) 韓昌完・矢野夏樹・米水桜子(2015) インクルーシブ教育評価尺度 (IEAT)の開発。琉球大学教育学部紀要, 86, 119-128.
- 4) 松田次生(2008) ICF にもとづく障害理解の概念規定の試み。西九州大学健康福祉学部紀要, 38, 37-44.
- 5) 山崎裕子(2006) 障害を「理解する」とは何か?—生き方の問題としての問い直し—。第29回 法政大学懸賞論文 優秀論文集, 1-31
- 6) 中村義行(2011) 障害理解の視点—「知見」と「かかわり」から—。佛教大学教育学部学会紀要, 10, 1-10.
- 7) 品川裕香(2006) ニーズ・ベース・アプローチによる教室の中の「気がかりな子」への支援(8)「支援という名のラベリング」にしない。児童心理, 60(11), 128-134
- 8) 篠崎良勝・徳田克己(1996) 子どもに盲導犬についての理解を促すための試み—障害理解教育の視点から—。日本保育学会大会研究論文集, 49, 852-853.
- 9) 山本哲也・徳田克己・望月珠美(1997) 幼稚園・保育所における障害理解教育の実態。障害理解研究, 2, 59-65.
- 10) 山本哲也(2003) 小学校中学年児童を対象にした障害理解教育の実践—「できる」シミュレーションの効果—。研究紀要, 9, 61-81.
- 11) 楠敬太・金森裕治・今枝史雄(2012) 児童の発達段階に応じた系統的な障害理解教育に関する実践的研究—教育と福祉の連携を通して—。大阪教育大学紀要 第IV部門, 60(2), 29-38.
- 12) 川合紀宗・深山翔平(2012) 通常学級在籍する障害のある児童への理解推進を図る取り組みの現状と課題。広島大学大学院教育学研究科附属特別支援教育実践センター研究紀要, 10, 73-81.
- 13) 柳澤亜希子(2006) 保育者をめざす学生の障害に対する理解—障害のある人々との接触経験および障害理解教育との関連について—。北陸学院短期大学紀要, 38, 123-138.
- 14) 小林智志・梁真規・今枝史雄・金森裕治(2013) 私立の小学校における系統的な障害理解教育プログラムの作成に関する研究(第I報)—各学年の障害理解の発達段階の様相—。大阪教育大学紀要 第IV部門, 64(1), 127-136.

- 15) 小林智志・梁真規・今枝史雄・金森裕治(2013) 通常の小・中学校における障害理解教育の実態に関する研究(第I報)—実施状況及び教員の意識に関する調査を通して—. 大阪教育大学紀要 第IV部門, 61(2), 63-76.
- 16) 小林智志・梁真規・今枝史雄・楠敬太・金森裕治(2016) 私立の小学校における系統的な障害理解教育プログラムの作成に関する研究(第II報)—プログラムの効果の検証を通して—. 大阪教育大学紀要 第IV部門, 64(2), 29~38.
- 17) 田口禎子・林安紀子・橋本創一・池田一成・大伴潔・菅野敦・小林巖・三浦巧也・戸村翔子・村松綾子(2012) 通常教育教員養成における特別支援教育プログラム構築のための基礎的な検討—教師志望大学生の障害者理解と障害理解教育に関する調査—. 東京学芸大学紀要 総合教育科学系, 63(2), 235-243.
- 18) 今枝史雄・西山寛弥・金森裕治(2014) 私立の小・中学校における障害理解教育の実態に関する研究. 大阪教育学紀要 第IV部門, 64(1), 65-80.
- 19) 小林智志・梁真規・今枝史雄・金森裕治(2015) 私立の小学校における系統的な障害理解教育プログラムの作成に関する研究. 大阪教育大学紀要 第IV部門, 64(1), 127-136.
- 20) 小田量戸・金森裕治(2016) 小学校における視覚障害理解教育に関する実践的研究. 大阪教育大学紀要 第IV部門, 64(2), 13-28.
- 21) 芝田裕(2013) 人間理解を基礎とする障害理解教育のあり方. 兵庫教育大学研究紀要, 43, 25-36.
- 22) 韓昌完(2016) 第4回 Asian Society of Human Services 研究者養成研修会.

- Editorial Board -

Editor-in-Chief	Atsushi TANAKA	University of the Ryukyus (Japan)
Executive Editor	Changwan HAN	University of the Ryukyus (Japan)

Aiko KOHARA
University of the Ryukyus (Japan)

Aoko CHINA
National Institute of Vocational Rehabilitation
(Japan)

Eonji KIM
Hanshin PlusCare Counselling Center (Korea)

Haejin KWON
Ritsumeikan University (Japan)

Hideyuki OKUZUMI
Tokyo Gakugei University (Japan)

Iwao KOBAYASHI
Tokyo Gakugei University (Japan)

Kazuhito NOGUCHI
Tohoku University (Japan)

Keita SUZUKI
Kochi University (Japan)

Kenji WATANABE
Kio University (Japan)

Kohei MORI
Kanda-Higashi Clinic, MPS Center (Japan)

Liting CHEN
Sophia School of Social Welfare (Japan)

Mika KATAOKA
Kagoshima University (Japan)

Mikio HIRANO
Tohoku Bunka Gakuen University (Japan)

Nagako KASHIKI
Ehime University (Japan)

Shogo HIRATA
Ibaraki Christian University (Japan)

Takahito MASUDA
Hirosaki University (Japan)

Takashi NAKAMURA
University of Teacher Education Fukuoka (Japan)

Takeshi YASHIMA
Joetsu University of Education (Japan)

Tomio HOSOBUCHI
Saitama University (Japan)

Toru HOSOKAWA
Tohoku University (Japan)

Toshihiko KIKUCHI
Mie University (Japan)

Yoshifumi IKEDA
Joetsu University of Education (Japan)

Editorial Staff

- Editorial Assistants	Mamiko OTA	University of the Ryukyus (Japan)
	Sakurako YONEMIZU	Asian Society of Human Services

Journal of Inclusive Education

VOL.1 August 2016

© 2016 Asian Society of Human Services

Editor-in-Chief Atsushi TANAKA

Presidents Masahiro KOHZUKI • Sunwoo LEE

Publisher Asian Society of Human Services

Faculty of Education, University of the Ryukyus, 1 Senbaru, Nishihara-cho, Nakagami-gun, Okinawa, Japan
FAX: +81-098-895-8420 E-mail: ashs201091@gmail.com

Production Asian Society of Human Services Press

Faculty of Education, University of the Ryukyus, 1 Senbaru, Nishihara-cho, Nakagami-gun, Okinawa, Japan
FAX: +81-098-895-8420 E-mail: ashs201091@gmail.com

Journal of Inclusive Education
VOL.1 August 2016
CONTENTS

ORIGINAL ARTICLES

- The Measurement of Educational Assessment and Psychology, Physiology and Pathology for Children with Physical Disability, Health ImpairmentHaejin KWON, et al. 1
- Effects of Weekday Café Program in Special Needs School; Using by Special Needs Education Assessment Tool (SNEAT)..... Yoshimi CHINEN, et al. 11
- Redefinition and Construct of Diversity Education..... Changwan HAN, et al. 19
- Remembering the Past Autobiographical Memories and Imaging the Future in an Adult with Amnesic Syndrome; The Role of the Involuntary MemoryMikio HIRANO, et al. 28
- Study for Construction of the Individual Education Support Model: Based on IN-Child Record Mamiko OTA, et al. 35
- The Influence of the Degree of Others/Self-understanding of the Social Interaction in Children with ASD Toru SUZUKI, et al. 48
- Study on the Expectation of the Student Volunteers to Assist in the Leisure and Learning for Hospitalized Children Sachiyo YAMASHITA, et al. 54
- The Verification of the Reliability of the SNEAT10; The Study of Screening Scale for Inclusive Needs ChildAiko KOHARA, et al. 67
- Social Psychological Study for Motivations of Supports for Developmental Disorders by Members in WorkplacesHiroataka KUWAKI, et al. 74
- Description of Disability in the Sub-textbook on Morals for Elementary School Students Atsushi TANAKA, et al. 85
- The Discrepancy in Members' Participation Purpose in the Self-help Group of Person with Disabilities and His/Her Family that Continues for Many Years: A Case of the Group for Down's Syndrome Takahito MASUDA, et al. 92
- Current Situations and Issues of the Education for Disability Understanding in Higher Education Haejin KWON, et al. 104
- Performance Analysis of Diversity Management using the Balanced Scorecard: Case Study of Japanese Companies Employing Disabled and the ElderlyMoonjung KIM 114

REVIEW ARTICLES

- Special Needs Education in School Education Act and Services and Supports for Persons with Disabilities Act Ryotaro SAITO 124
- Executive Function and Brain Pathology in People with Intellectual and Developmental Disabilities Yoshifumi IKEDA 132
- Research Trends on Educational Support and Psychological Characteristics of the Children with Physical Disabilities Kohei MORI 140
- Special Needs Education in The Elementary School Government Guidelines for Teaching and Nursery Childcare Indicator..... Ryotaro SAITO 146
- Basic Study about Development of the Education for Disability Understanding Index; Based on the Inclusive Education.....Haena KIM, et al. 155
- Current Situation and Issues Related to Organization of the Education Curriculum and Devising of Educational Treatment of Children with Health Impairments..... Kohei MORI 164

PRACTICE REPORT

- A Report of the Project of Establishment of Educational Security Center for the Long-term Hospitalized Children in Ehime Prefecture..... Kosuke NAKANO, et al. 170

Published by
Asian Society of Human Services
Okinawa, Japan